

【藤枝市】 校務DX計画

文部科学省「GIGA スクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議提言」に基づく次世代の校務デジタル化に向け、文部科学省が公表した「GIGA スクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に示されている、教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現するための対応を行う。

1 本市における「校務DX」への取り組み状況

本年度実施した『GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト』に基づく自己点検において、本市では「教育委員会の指導主事へのGIGA端末の支給」や、「教育委員会に学校と同様のクラウド環境を整備している」など、既に実施しているものがある一方、「研修での端末利用・持ち込み」や「端末の校外利用」など、これまでセキュリティ対策として実施してこなかったものなどもあり、今後運用の見直しをしていく必要がある。

2 本市における校務DXの位置づけとあり方

第二期藤枝市教育振興基本計画（教育大綱）では、「教職員の働き方改革と職場環境の改善を推進し」、「校務の効率化に向けた学校DXを推進」と位置づけしている。教員の児童・生徒と接する時間や教材研究の時間を確保するため、校務の効率化に寄与するDX化について研究を進め、導入を図る。

3 教育DXの実現に向けた取り組み

(1) FAX・押印の廃止に向けた取り組み

押印廃止に係る市内小中学校での取組を横展開し、押印・署名を必要とする書類の削減を促していく。

また、保護者への連絡にあってはメール一斉送信ツールを効果的に利用し、紙での通知等を最小限とする。併せて、教職員間での連絡及び情報共有にあっても、校務システムを積極的に利用する。

FAXの利用にあっては、災害時や教育ネットワークの不具合時、緊急時など、FAXの方が電子メール等より効率的な場合を除き、学校と保護者及び外部事業者間の連絡については電子メールの利用を行うよう、周知していく。

(2) 校務支援システムにおける手入力作業の削減

校務支援システムの次期更新にあわせ、対応する調書を増やすなどすることで、名簿など共通事項の入力を省力化することについて研究を行う。併せて、紙に記載された内容を転記する作業を軽減するための手法について、研究を行う。

(3) クラウド環境を活用した校務DXの積極的な推進

令和6年度の校務用ファイルシステムの再構築により、データ保存のクラウド化を

実現し、あわせて更新したメッセージ系の校務システムと連携して稼働する環境となった。今後は、教育委員会が学校に対して行う調査等についてクラウドシステムを積極的に利用する。また、これまでセキュリティ対策として実施してこなかった、研修等における端末の持ち込みや、校外での端末利用、教職員への個人メール付与について研究を行う。

(4) 次世代の校務システムの導入に向けた研究

校務システムの都道府県単位での導入に係る動向を注視するとともに、現在導入している校務システムの契約更新にあわせた、次世代の校務システムの導入について研究を行う。